

日伯友好百周年基金解散プレスリリース 2009年6月19日

ブラジル日本商工会議所
会頭 田中信

本日は恒例の昼食会の席を利用して、日伯修好百周年基金助成授与式を行います。ブラジル日本援護協会に対する今回の助成金をもって、基金はゼロとなり、基金の母体である日伯友好交流促進協会は解散手続きに入ります。

日伯修好百周年とは、19世紀にさかのぼる1895年、パリにおいて日伯通商航海条約が調印され、両国間の国交が樹立されてから百年を経過した1995年であります。

その年には紀宮清子（サヤコ）内親王が来伯され、ブラジル各地で盛大な記念行事が行われました。

これら諸行事の支出に充当するため、商工会議所を始めとする日系主要5団体（会議所、文協、援協、県連、アリアンサ）が中心となり精力的な募金活動が実施されました。一連の記念行事が成功裡終了した翌1996年、上記5団体を母体に、集めた余剰金85万リアル（85万ドル）を基金として、日伯友好交流促進協会が設立され、引き続き両国の友好促進に資するプロジェクトに支援を行うことになりました。

設立以降、基金のインフレ目減り分を除いた運用益のみを、毎年、上記目的に合致した事業への助成を2002年まで続け、その合計は23件、約85万リアルに達しました。

2003年この基金の管理5団体の長が協議し、以後の毎年の支援を中止し、2008年のブラジル日本移民百周年記念に相応しい記念行事に全額支出し、協会は解散することを決定しました。

この移民百周年記念行事に対する助成は2007年11月から受付を開始、厳格な審査を経て計11件、125万6千リアルの助成を決定しました。

又、昨年、助成は承認されたが、書類の不備などで支出ペンディングとなっていた中期プロジェクト2件（移民史料館及び移民百年史）計42万リアルも近く実行可能見込みとなりました。

更に、清算関係費用等を差し引いて、基金の余剰額が約10万リアルに達する見込みとなりましたが、これは全額サンパウロ日伯援護協会の福祉医療センター建設プロジェクトに助成することが決定されました。

以上により、基金の助成額は創立以来本年解散時まで累計約 263 万レアルの見込みとなりました。

6月5日開催された5団体長会議では以上の手続きを承認するとともに、昨年決定された基金の解散期日を本年末とすること、清算人を引き続き商工会議所事務局長に依頼することなどが確認されました。

それではこれより援護協会に対する助成授与式を行います。今まで執り行った授与式にならない、プロジェクトの最高責任者、森口会長のほか本年度末をもって発展的解消をする日伯友好交流促進協会の構成5団体の長にも全員ご出席頂いております。

ご承知の通りこの援協の福祉医療センター建設については、3月の昼食会において、森口会長より直々寄付の協力依頼がありました。その際、福祉医療センターが将来の医療基準を十分満たす最新医療機器を備え、人間ドックによるチェックアップサービスを日本語でも行うことが説明されました。完成の暁にはコロナ社会をはじめ駐在員の方々も便利な信頼おける一流の医療サービスが受けられることとなります。

今日まで他の団体に対する助成額に比すれば大きい額ではありませんが、これが企業や個人からの協力の呼び水となることも期待して、ここに覚書を添えて授与させていただきます。

会員の皆様も本プロジェクトの意義と重要性を更にご認識の上、引き続きご協力をお願いして私のご挨拶と致します。